



雨天時に自転車利用者はどのような運転をしているか？



Q1

雨天時に走行していた自転車利用者467人中、傘さし運転をしていたのは何%だったのでしょうか？

A1 実際の観察から

★Q1の回答

傘さし運転をしていた自転車利用者は467人中231人(49.5%)

観察場所を通過した自転車利用者は467人でこのうち、約半数にあたる231人が傘さし運転をしていた。傘さし運転の自転車利用者の約8割は成人(19～64歳)と高齢者(65歳以上)であり、透明のビニール傘や小型の折り畳み傘を使用。傘を前に傾げる人、傘を持ち垂直に掲げる人、肩に掛ける人など、さし方は様々だった。傘を持つ手は右手が160人、左手が71人であった。

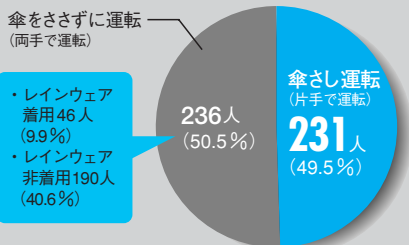
レインウェア(カッパ)を着用していた自転車利用者は46人であり、こちらも8割近くが成人と高齢者だった。子どもや中学生・高校生は雨に濡れたまま走っているケースが多かった。傘をさしていない自転車利用者は目的地に急ぐため、スピードを出したり、赤信号を無視する傾向が見られた。



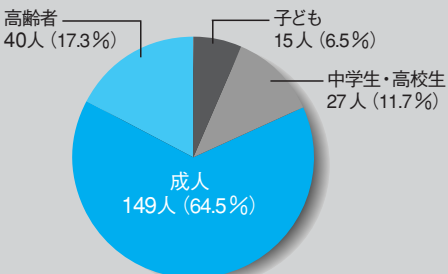
レインウェア(カッパ)を着用している自転車利用者

雨が顔に当たらないように傘を前に傾けてさす自転車利用者

●自転車利用車の傘さし運転状況(467人中)



●傘さし運転の自転車利用者の年齢層(231人中)



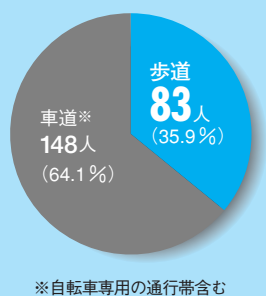
※子ども(13歳未満)、中学生・高校生(13～18歳)、成人(19～64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の判断による



Q2

傘さし運転をしていた231人のうち歩道(自転車通行可)を走行していたのは何%だったのでしょうか？

●傘さし運転の自転車利用者の走行位置(231人中)



※自転車専用の通行帯含む



二人乗りをしながら傘さし運転をする若者



横断歩道で押し歩きする自転車利用者



歩道上ですれ違う傘さし運転の自転車

★Q2の回答
歩道を走行していたのは231人中83人(35.9%)

A2 実際の観察から

Why 傘さし運転は安全運転義務に違反

自転車第1当事者または第2当事者となった交通事故件数は減少しているものの、交通事故全体に占める割合は漸増傾向にあり、平成24年は約2割となっている。また、自転車加害者となった場合、運転者に対して高額な賠償命令が出されることもある。

自転車は雨の日でも利用する人が多い。雨天の際、歩く時は傘をさすが、自転車の場合はどうだろうか？自転車乗用中に傘をさす(傘さし運転)ということは、片手で傘を持ちながら運転するわけだから当然、片手運転となる。片手運転では、自転車のハンドルやブレーキを確実に操作することができなくなり、道路交通法

第70条「安全運転の義務」に違反することになる。そこで今回は雨天時に走行する自転車の運転について観察した。



Advice

片手運転は危険！両手でハンドルとブレーキの操作を

この日の天候は日が曇りで、夕方か

観察場所は東京都江戸川区内の信号のある交差点(T字路)付近。車道は片側1車線で、両側に自転車通行可の歩道が整備されている。近くにはスーパーなどの店舗もあり、買い物にやってくる女性を中心に子ども、中学生、高齢者まで幅広い年齢層の自転車利用者が往来していた。



横断歩道で歩行者と接触しそうな自転車

ら雨となった。雨が降り始めて10分後の17時から観察を開始。1時間に観察場所を通過した自転車利用者は467人と、雨にもかかわらず多くの自転車が走行していた。

傘さし運転の自転車は全体的にゆっくりに走っている傾向だったが、信号が赤から青に変わって発進する時など、こぎ出してからしばらくフラつく自転車が目立った。さらに曲がり角では、大回りになってしまいううで、ぎこちない運転の自転車も見られた。傘を前に傾けてさしている自転車利用者は前方が見にくいため、歩行者と接触しそうな場面もあった。傘さし運転は、傘で視界がささげられたり、傘が風にあおられたりして危険である。さらに片手運転となり、ブレーキをかける際、前・後輪どちらかのブレーキしか使えない。そのため、両手でブレーキをかけるのに比べ不安定で、制動距離も長くなる。これでは歩行者やクルマが目の前に飛び出してきた時など、安全に停止することができない。特に、左手

で傘を持つ場合は、前輪のブレーキしかかけられないため、濡れた路面では急ブレーキをかけた際に転倒することもある。雨天時に雨をしのぐのであれば、傘をさすのではなく、レインウェアを着用してほしい。前方の視界を確保し、両手でハンドルとブレーキを操作することが周囲はもちろん、自分にとっても安全である。